

環境科学部 生物資源管理学科

Department of BIOLOGICAL RESOURCES MANAGEMENT

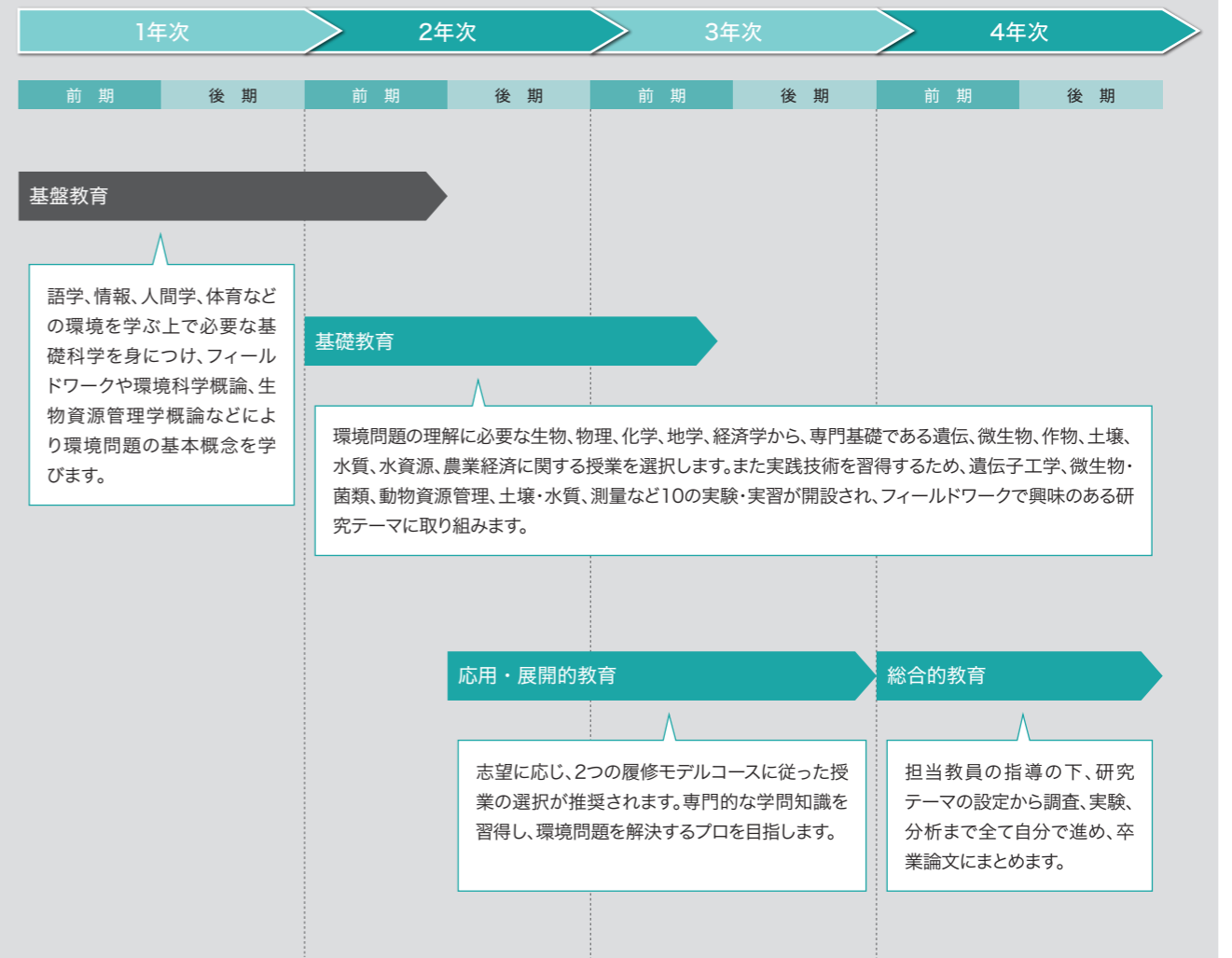
琵琶湖や地域と直接つながる大学だからこそ学べる、体感できる、環境学があります。

琵琶湖や地域のフィールドを使いながら環境問題を学びたいと思いのこの学科にしました。入学後は植物・土壌・畜産といった様々な分野から学ぶことができ、卒業論文では自分の興味と合致した研究課題を選択できるというのも魅力の一つでした。フィールドワークでは実際に学校の外に出て調査を行うことができ、環境問題を身近に感じることができます。他学科との交流の機会もあったので幅広い視野を獲得することもできました。この学科は広大な圃場を所有していたり、羊を飼育していたりと学べる環境は整っています。自分から学ぶ姿勢を忘れずに大学生活を送れば充実した4年間になると思います。

環境科学部 生物資源管理学科 3年生
澤山 昌宏 さん/滋賀県立河瀬高等学校出身



◎学びのステップ〈4年間の学習フロー〉



生物生産と生物機能を適切に制御、管理する知識と知恵を学び、 農林水産業の発展と循環型社会の形成を目指す

◎アドミッションポリシー

生物資源管理学科では、動植物の生産や病害虫からの保護、土壌・水資源の保全と活用、生物機能を利用した物質生産や環境改善など、農林水産業に関わる生物資源の管理と活用に関する基本的な知識と技術を有する人材を養成します。この教育目標を達成するために、次のような学生を求めます。

求める学生像

- ① 高度な専門的知識を身につけるために必要な理科、数学、外国語等の基礎学力を有する人(知識・理解)
- ② 農林水産業や地域環境に強い関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲を持つ人(関心・意欲)
- ③ 地域社会から世界規模の問題まで広範な関心を持ち、人と協力して問題を解決する力を有する人(協働性)
- ④ 見出された問題の解決に向けて論理的に思考できる基礎力を有する人(思考力・判断力)

◎学びのポイント

21世紀は環境の世紀といわれます。大量生産、大量消費、大量廃棄という従来の生産と生活スタイルを続ければ環境負荷の増大は避けられず、エネルギー資源の枯渇だけでなく二酸化炭素をはじめとする排ガス、排水、廃棄物の大量発生による環境悪化など環境問題の深刻化を招くことは必至です。73億人を超える地球人口を支えるための食糧の確保にも環境への影響増大が懸念されます。すなわち、エネルギーをはじめとする資源と食糧をどう確保、調達するのか、その過程で生じる環境影響をいかに軽減させるかが問われる時代です。このような時代背景が生物資源に対する熱い期待を生んでいます。生物資源生産は従来、農業を主とする食糧生産と同義でしたが、現代はバイオマスのようなエネルギーや有用素材の生産を含み、また植物による生物生産の特徴である炭素固定は地球温暖化対策にも有効です。食糧問題だけでなく地球環境問題、エネルギー問題の解決に生物資源の活用が期待される時代がやってきたのです。生物資源の生産を最適な条件で行い、環境への影響を最少化するには、その生産の場である土と水をめぐる環境、生物資源そのものである植物(作物)、動物、微生物を熟知し、適切に生産・管理する技術とシステムが必要です。最先端の生物制御技術(バイオテクノロジー)も必要になります。生物資源管理学科はこのような21世紀の課題に応える知識と知恵を備えた人材の育成をめざす学科です。



Point 1 基本概念的習得 環境科学概論、生物資源管理学概論、環境FWI～Ⅲにより、環境問題を総合的に把握できる能力を養います。	Point 2 履修モデルコースによる系統的な学習 生物機能利用コース、環境農学コースの2つの履修コースにより、興味のある専門分野を系統的に学びます。	Point 3 実践的な分析技術の習得 遺伝子工学実験、動物資源管理実験、土壌・水質分析実験など10の実験・実習コースにより、即戦力としての実力を育成します。
--	---	---



環境科学部
生物資源管理学科
大久保 卓也 教授

生物資源管理学科 ってこんなところ

授業
PICK UP

本学科は人間の生業に不可欠な農林水産業の技術と知識を学びますが、環境負荷の低減、持続可能なシステムの構築に視点のあることが農学部とは一味違うところ。また一学科でありながら、植物、遺伝、水産、畜産、土木、化学、経済など幅広い分野を網羅していることも魅力のひとつです。



▲圃場実験施設の研究水田での田植え

〈専門科目の例〉 講義・演習・実験

植物資源管理学

資源植物の群落光合成と収量形成過程、およびそれらにとって重要な太陽エネルギー固定関連形質や環境要因の制御技術について学びます。

動物資源管理学

人間の生活と関連する家畜から野生動物について、それらの役割やその関連性などを広く概説しながら、動物資源の管理法について学びます。

作物保護学

農作物に発生する重要な病害およびその原因となる様々な病原微生物について理解を深めるとともに、作物保護のさまざまな手段についても具体的に学びます。

土壌環境化学

人間にとって不可欠な存在である土壌の成り立ちや機能を主に化学の視点から理解し、資源としての重要性や環境問題との関わりについて学びます。

水資源利用学

農業用水は淡水資源の利用において最大使用量を占めます。水田や畑地における灌漑の方法や、必要な水資源量の算定方法を学びます。

農業経営学

生物資源も、産業や生活に役立つことが不可欠です。農畜産物の生産と販売を担う農業経営の基礎を学ぶとともに、簿記と財務諸表分析の基本を学びます。

◎研究分野とスタッフ

◇植物グループ

植物を研究素材とする、生産管理、機能解析およびその利用
5研究室から成り、それぞれ、①作物の生産性向上を目的とした栽培技術の開発と評価、②植物の重金属蓄積機構の解明とその有効利用法の開発、③高い観賞性と環境ストレス耐性をもつ花卉の開発、④低肥料栽培可能なイネ開発の遺伝子研究、⑤高付加価値・低環境負荷型の野菜生産研究、に取り組んでいます。
(泉 泰弘教授、原田 英美子准教授、上町 達也准教授、清水 顕史准教授、畑 直樹助教)

◇動物・魚類・昆虫グループ

畜産学・水産学・動物生態学の研究と応用
畜肉生産や害獣対策などに関連した研究を地域と連携しながら行います(畜産)。琵琶湖の水産資源の増殖と養殖を目指して、様々な技術開発とプロフェッショナルの育成を行ないます(水産)。野外での昆虫や植物などの関係を進化と生態学の視点から解明し、農業生産や生態系保全への貢献を目指します(生態)。
(杉浦 省三教授、高倉 耕一准教授、平山 琢二准教授)

◇微生物グループ

植物との共生、共生および腐生に関わる微生物機能の解析と利用
環境と調和した持続的農業を成立させるための植物病原菌の制御や宿主抵抗性の利用に重点を置いた植物病害管理技術に関する研究、植物と病原菌あるいは共生菌をめぐる生物間相互作用(病原性メカニズム、共生メカニズム)に関する遺伝学的研究および白色腐朽菌(木質を腐らせる担子菌門きのこのグループ)の木質リグニン分解機構と産業への応用に関する研究を進めています。
(鈴木 一実教授、入江 俊一准教授、泉津 弘佑助教)

◇環境化学・土壌学グループ

化学を基礎とした土・水環境における物質動態の研究と応用
化学的手法を用いて、微量化学物質や土壌有機物の環境中での動態を研究しています。具体的には、農地に散布された農薬の河川や琵琶湖への流出メカニズムと流出を制御するための研究をはじめ、地球温暖化に深く関与する土壌有機物の安定化メカニズムに関する研究などを行っています。
(須戸 幹教授、飯村 康夫助教)

◇農業土木グループ

農村・自然環境の基盤整備
農業生産の基盤整備とともに自然環境と調和した持続的な農業を実現するために水・土・大気・生物やその相互関係を研究します。主なテーマは、農業水利施設の水利用機能診断や水田生態系の保全、琵琶湖や河川の水質保全対策手法調査、乾燥地での灌漑技術開発や塩類土壌の植物による改善技術、土壌物理化学性を生かした雑草対策・農地改善技術などです。
(大久保 卓也教授、岩間 憲治准教授、皆川 明子助教)

◇生物資源経済グループ

農業生産と地域資源管理を経済的視点から分析
農業経営の法人化や集落営農の組織化、新規就農、農産物流通における地産地消や第6次産業化、農業協同組合や生活協同組合などの協同組合、環境こだわり農業などの環境保全型農業、農地・水・環境などの地域資源をターゲットに研究を行っています。
(増田 佳昭教授、増田 清敬助教)



生物資源管理学実験・実習V
魚のRNAを抽出しているところ

生物資源管理学実験・実習IX
現地の土壌を調査し実験試料を採取する方法を学んでいるところ

生物資源管理学実験・実習VII
土壌がどれだけ養分を含んでいるかを分析しているところ

生物資源管理学実験・実習X
トータルステーションで2点間の向き・距離を測量しているところ

生物資源管理学実験・実習IV
無菌室でカビと細菌の培養状態を観察しているところ

生物資源管理学実験・実習XI
学食利用者アンケートを作っているところ

◎進路状況 (2014~2016年度卒業生)

◆就職先

- アース環境サービス(株)
- 井村屋グループ(株)(日本フード(株))
- 株オイスシ
- カゴメ(株)
- 学研ホールディングス(株)
- JA ぎふ
- 京都信用金庫
- 京都府土地改良事業団体連合会
- JAグリーン近江
- (株)コープしが
- 新江州(株)
- JA 全農
- JA 全農しが
- 西日本旅客鉄道(株)
- 日本ルナ(株)
- JA 東びわこ
- JA 兵庫南
- 株日吉
- 株福寿園
- 株平和堂
- 株ロック・フィールド
- 株わかさ生活
- オムロン(株)
- 日本ハム(株)
- JA 西日本くみあい飼料(株)
- 日本ゼネラルフード(株)
- タキイ種苗(株)
- 株パローホールディングス
- フジバングループ本社(株)
- 株島津アクセス

- 滋賀県教育委員会
- 農林水産省中国四国農政局
- 国土交通省北海道開発局
- 農林水産省近畿農政局
- 近江八幡市
- 滋賀県
- 兵庫県
- 向日市
- 八幡市

◆進学先

- 滋賀県立大学大学院
- 京都大学大学院
- 神戸大学大学院
- 名古屋大学大学院
- 奈良先端科学技術大学院大学



取得可能な資格一覧*

- 教員免許: 中学校教諭一種(理科)
高等学校教諭一種(理科・農業)
- 学芸員資格
- 甲種危険物取扱者受験資格
- 社会福祉士任用資格

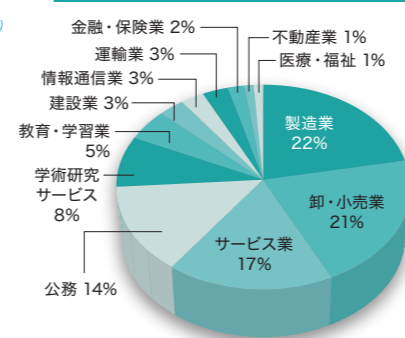
OB & OG Message

2011年度卒業
勤務先: アース環境サービス株式会社
田丸 潤さん



弊社は大塚グループの一社です。医薬品・食品などの工場を主な得意先として、「品質管理」のトータルサポートを行っており、問題点を診断し、改善策の提案、対策の実施とその効果確認までサポートすることが弊社の業務となっています。
私は現在、技術営業として現場にお伺いし、品質管理の診断や対策を行う「技術」、サポート案内や対策提案をする「営業」の各業務を担当しています。
品質管理は企業の信用にかかわるテーマであり、対応いただくお客様は社長や工場長といった役職者の方も多くいらっしゃいます。大変ですが、とてもやりがいがあり、感謝のお言葉を頂戴したとき等はとても励みになります。近年よく問題になる異物混入や製品汚染ですが、異物の原因としては人の毛髪や樹脂片、害虫や害獣などが問題になりやすく、製品汚染であれば微生物やウイルスなどが問題になってきます。
大学で学んだ生物の生態や微生物の分析方法などの知識を交えてお客様にお話することで提案事項に説得力が増し、評価頂いております。品質管理は年々その重要性が認識され、需要が高まっています。厳しい要求にしっかりお応えし、会社と自分の名前を広めて活躍していきたいです。
(2017年1月現在)

2014~2016年度卒業生の業種別就職状況



CAMPUS LIFE ONE DAY 県大生の一日



1日のスケジュール

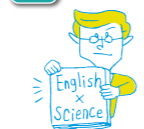
- 8:30 通学
- 9:00 1限: 遺伝学
- 10:40 2限: 専門外書講読
- 12:10 昼休み
- 13:10 3限: 応用微生物学
- 14:50 4限: 生物資源管理学実験・実習I
- 16:30 5限: 生物資源管理学実験・実習I
- 18:00 オークストラ部

1限



さまざまな生物の遺伝の仕組みを学びました。

2限



専門的な科学英語の読み方を学びました。

4・5限



栽培した小麦でパンやうどんを作って味を評価しました。

課外



オーケストラ部で定期演奏会の練習をしました。